

【3年間の運営方針】	【3年後のありたい状態】
<p>1. 人材育成、教育の方針</p> <p>《教育方針》</p> <p>◎キリスト教主義に基づく全人教育と“Mastery for Service”の具現化 初等部聖句 「幼子はたくましく育ち、知恵に満ち、神の恵みに包まれていた」ルカによる福音書2章40節</p> <p>《4つの柱》</p> <p>◎聖書・礼拝 礼拝や聖書の時間を通じて、人を思いやる気持ち、小さなことに感謝できる心を育む。</p> <p>◎国際理解 英語力を高め、コミュニケーションを楽しみながら、異なる価値観の獲得をめざす。</p> <p>◎全員参加・理解 みんなで主体的に問題解決を図りながら、確かな学力の獲得をめざす。</p> <p>◎本物 文化、スポーツ、芸術、自然に触れる機会を通じて、豊かな感性を育む。</p>	<p>＜2024年度のありたい状態＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キリスト教主義に基づく全人教育と“Mastery for Service”の具現化 すべての教員が「キリスト教主義に基づく全人教育」でめざす子ども像を具体的にイメージし、「“Mastery for Service”を体現する世界市民」の育成につながる教育を実践している。 2. 聖書・礼拝 日常生活の様々な場面で、他者に関心を持ち、思いやりの心を注ぐことができる子どもが育っている。 3. 国際理解 英語が好きになるとともに、英語スキルが十分に定着する授業が行われている。 4. 全員参加・理解 すべての子どもの思考をアクティブにすることで、確かな学力の定着をめざす授業を展開している。 5. 本物 直接的に人、社会、自然に関わる教育プログラムが系統的に行われている。
<p>2. 児童・生徒獲得の方針(箇条書きもしくは文章で)</p> <p>◎魅力ある学校づくり (上記参照)</p> <p>◎広報活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入試イベントの充実 ・幼児教室訪問継続 ・インター系幼稚園訪問拡大 ・WEBによる広告の拡大 <p>◎入試方法変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B入試の内容変更 	<p>＜2024年度のありたい状態＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. すべての教員が「キリスト教主義に基づく全人教育」における4つの柱を具体的にイメージしている。 2. すべての教員が、志願者確保に高い関心を持ち、積極的に広報活動に協力している。 3. A入試、B入試の実施
<p>3. 中期的な課題(箇条書きで)</p> <p>＜フェーズ2(2022～2024)＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 志願者の確保 2. 英語教育の充実 3. 算数教育の充実 4. 教育課程の改善 5. 配慮が必要な児童へのサポート 6. 教員が欠けた場合のセーフティネット 7. ICT教育の充実 8. 初・中・高間での情報及び学力観の共有 	

【重点施策】 (中期的な課題を解決するための重点施策を箇条書きしてください。「中期総合経営計画」の実施計画がある場合は、第1順位にしてください。優先順位の高いものから5つ程度)	【中期総合経営計画 実施計画】として取り組むものに ○
① 総合学園の「見える化」と関西学院アイデンティティの浸透	○
② 志願者の確保	
③ 英語力の向上	
④ 教育課程の改善	
⑤ 配慮が必要な児童へのサポート	
⑥ 算数教育の充実	
⑦ ICT教育の充実	

【3年間の取り組み状況(中期計画)を測る指標】

- | | | |
|--------------------|---------------|-----------------|
| ① スクールモットーの認知度・共感度 | ② 志願者数 | |
| ③-1 英語授業への関心 | ③-2 英語授業での理解度 | ③-3 英語の習得 |
| ④ 教育課程の改善 | ⑤-1 不登校児童の割合 | ⑤-2 友達や教師との信頼関係 |
| ⑤-3 カウンセリング体制 | ⑥-1 算数授業への関心 | ⑥-2 算数授業での理解度 |
| ⑥-3 算数の習得 | ⑦-1 教師のICT活用 | ⑦-2 児童のICT活用 |

【目標や実績を踏まえた次年度に向けた展望】(2023年3月時点)

- ・本年度は昨年度より志願者が減少した。これには、少子化とコロナ渦の影響が多大であると考察している。来年度はさらに積極的に入試対策を講じなければならない。具体的にはPR行事の開始時期の前倒し、コロナ前に行われていた行事の復活、新たな行事の創造を行う。
- ・英語の学力向上については、概ね昨年度と同じ高水準の学習を保っていると考えているが、コロナ渦のため6年生のカナダコミュニケーションツアー(CCT)が2019年度から実施されていない。本年度は代替教育として東京アクティブツアー(TAT)を実施できた。来年度もCCTは実施できないが、TATは実施する予定である。英検3級以上合格の割合は、目標の50%を大きく上回る61%を達成している。
- ・本年度、中学部・高等部と連携し、生徒指導面の引継ぎの強化や初等部卒業生の追跡調査を行っていく予定である。

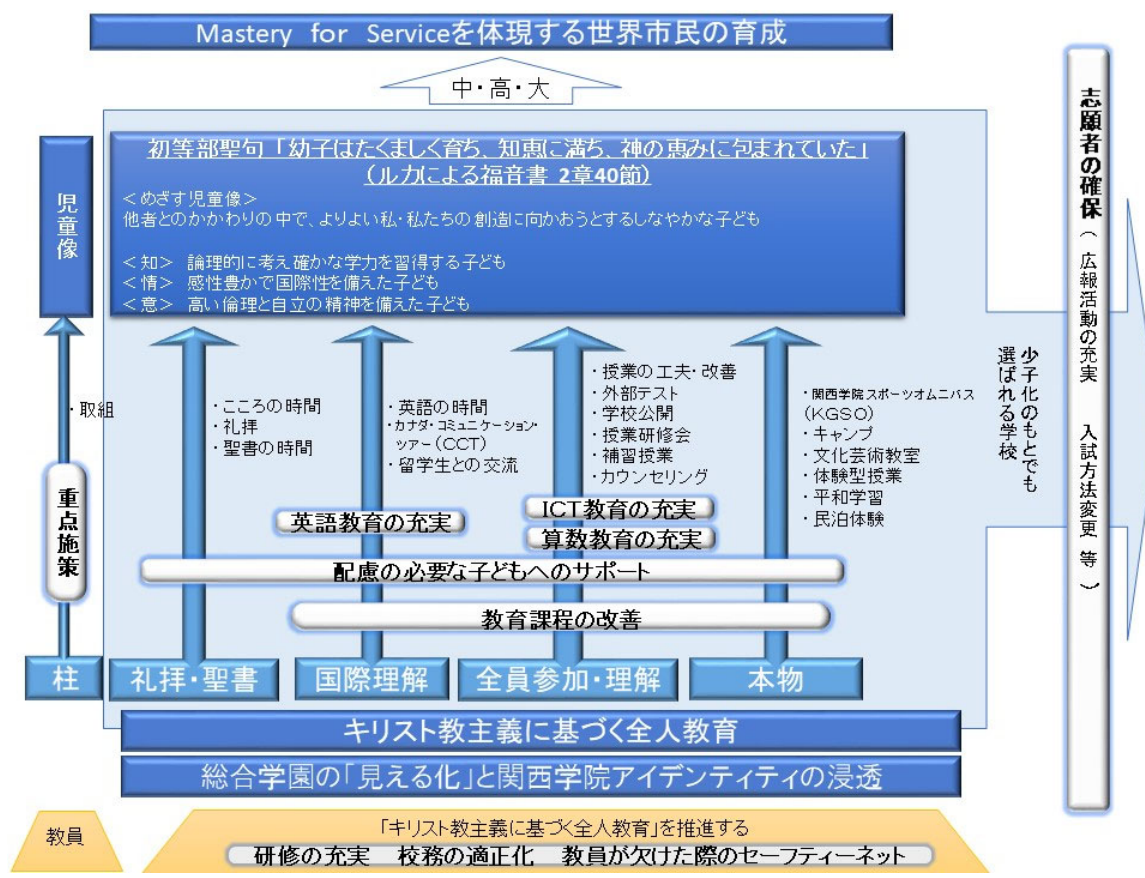
<2. 学校評価の取組みにより明らかになった課題>

- ・児童アンケート「困ったときに、友達や先生に相談できますか」の設問の肯定的回答は昨年の62.7%から58.0%に減少しているが、保護者アンケート「初等部の教育に満足している」では84.9%が91.4%に増えている。この児童と保護者のギャップについて考察し、来年度は、児童が安心して、相談できる体制に変えていかなければならない。「授業は楽しいですか」より「授業はわかりやすいですか」の方が肯定的な割合は高くなっている。教師一人一人がわかりやすい授業を創意工夫し、実行した成果だと考えている。
- ・キリスト教教育を土台とする教育や“Mastery for Service”を体現できる土台作りの方針は児童、保護者ともに理解してもらっている。教育課程・学習指導・学校行事については、コロナ渦の中、制限が緩和され、3年ぶりに実施できた行事が多くあり、コロナ渦以前に近づきつつある。今後、Withコロナの時代に合った教育活動を創意工夫していかなければならない。
- ・研修については、3年ぶりに学校公開が実施できた。これからもわかりやすい授業をし、“Mastery for Service”を体現できる児童の育成のための研修を行っていく。

<3. 上記1, 2を踏まえたフェーズⅡ(2022-2024)に向けた展望>

- ・志願者増へ向けて、情報発信の拡大や入試行事の創意工夫をの充実を図らなければならない。すでに入試行事の前倒しや大阪市内をターゲットにした幼児教室へのPR活動を実施しているが、これだけでは不十分と考える。体験授業や5・6年生とのふれあい行事等新しい活動を導入し、志願者増につなげていく。
- ・これからはwithコロナの時代を迎える。感染症に注意を払いながら、教育活動をコロナ渦以前の状態にできるだけ近づけ、その中でより質の高い学習指導を計画、実施し、児童の学力向上を図り、保護者からの信頼を深めたい。

取り組みの全体像(イメージ)



以上